

安心して生活できる地域をつくるために

島根県大田市立第一中学校 2年 竹下 鍊志



僕たちは総合的な学習の時間に乳幼児福祉について学びました。社会福祉協議会や子ども家庭相談室の方にお話を聞き、そこから班ごとにテーマを決めて探究活動をしました。

僕たちの班は「子どもや親が安心して生活できるようにする」という目標を立てました。この目標を立てた理由は、事前に保護者さんにとったアンケートの中に「人気（ひとけ）がないと怖い場所がある」という声があったからです。

目標を立てた後、僕たちは家の周りや気になるところなど、一中校区をグーグルマップで調べてみました。改めて見てみると、危ない場所や心配なところがたくさんありました。人の目が届きにくいところがあり、防犯カメラが少ないという印象を受けました。僕が防犯カメラの必要性を感じた場所は、パル跡地の駐車場、寺通り、長久小学校から稲用へ抜ける道、川合の農道などです。

僕たちは目標を達成するためのプランを考えました。プラン名は「見守り B 3 G 作戦」です。プラン名の由来は、防犯カメラ、募金、ボランティアの B、街灯の G、子どもを「見守る」です。

防犯カメラと街灯はセットにして設置します。カメラは一気に設置すると膨大な費用が掛かってしまいます。だから初めは安価なダミーを設置して、少しずつ本物に代えていこうと考えました。街灯は電気代を考慮して、ソーラータイプのものにします。そのための資金は募金で集めます。何のための募金で今後どのように役立つのか、僕たちがしっかりとポスターに書いて説明します。

ボランティアの方々には公園の周りを散歩してもらいます。それに合わせて危険なことがないか見守ってもらいます。ボランティア募集の広告や、見守りのやり方、連絡先、見守り場所の目安地図を書いたリーフレットも必要です。話し合いが進むにつれて、やりたいことや準備しなければならないものがたくさん出てきました。一つのプランを実現するには、たくさんのアイデアと協力が必要だと感じました。

仮に僕たちの「見守り B 3 G 作戦」が成功し、大田市の防犯カメラが増えたとします。それだけで犯罪を防ぐことが可能なのかと考えた時、僕の中に「防犯カメラを設置して終わりではない。」という思いが浮かんできました。防犯カメラだけでは万全とは言えないからです。壊されたり、逃げられたり、写っていると知っていながらも犯罪を起こす人がいるからです。犯罪を防ぐためには、防犯に対する意識を高め、自分の身を自分で守ることが大切だと考えました。

だから僕たちは防犯標語を考え、地域に暮らす人たちの防犯意識の向上を提案しました。僕たちが考えた標語は「ケーキとアイス」です。「ケー」は「警察に連絡110番」、「キ」は「きちんと戸締り」、「と」は「止まっても車は危険」、「ア」は「安全マップを作ろう」、「イ」は「今すぐつけよう防犯ブザー」、「ス」は「すぐに大人に知らせよう」です。親しみやすい標語の中に、心がけてほしい六つのことを簡単な言葉で入れました。特に小さい子は好奇心が強く、よく動きます。危険な行動は何か、危なくなった時にどうすればよいか、標語を通して知ってもらいたいです。

子どもや親が安心して生活できるようにするためにできることを考えました。しかし、提案することと実現させることの間には大きな壁があります。募金をして簡単にはお金が集まらないし、防犯に対する意識向上も簡単なことではありません。だからこそ、中学生のうちから防犯について調べ、みんなでアイデアを出しあって、解決策を一つひとつ考えていくことが大切なのではないでしょうか。

今回、班のみんなでアンケートをとったり、危険な所を調べたりしました。アンケートをとって初めて、保護者の方が感じていることが分かりました。班のみんなでアイデアを出しあえば、自分にはなかった発想や着眼点から学ぶこともできます。異なる意見があったら話し合って、納得できる考えを見つけることができます。見守り、危険箇所の確認、ポスター作りなど、僕たちにもできることがまだまだありそうです。

犯罪に遭わないためにどうしたらいいかを考えました。防犯には犯罪を起こさない、加害者にならないという視点も必要です。地域の中で、生活に不満やストレスを抱えていると、良くない行動につながってしまうこともあります。また、相談相手がいなければ孤立感を感じてしまいます。誰もが満足して暮らしていける町をつくれれば、犯罪が無くなっていくと考えます。僕たちの提案する「見守り」は解決策の一つであると思います。難しいテーマですがこれからそうしたことも考えていきたいです。安心して生活できる大田市をつくるために。